

## ◆第1回蒲田都市づくり推進会議での主な指摘事項と検討状況

分類		主な指摘事項	検討状況
将来像、目標の再整理について	1	・従前での将来像で入っていた国際化云々というニュアンスを残さない方向転換は如何なものか。	・羽田空港の国際化が実現し、大田区では、この機会をとらえ、国際交流拠点都市と多文化共生都市をめざす「国際都市おおた」を発信しており、「国際都市」を取り入れて将来像を見直し。
	2	・蒲田駅周辺地区グランドデザインと今回の提案が必要十分な関係がとれているのかを明確にしてほしい。 ・グランドデザインの街並み、緑の話も完全に切り離すのではなく、駅周辺とも有機的に関係している意識でやって頂きたい。	・グランドデザインでは、3つの基本方針として、交通拠点整備に係る「都市機能の向上」以外に、「商業・にぎわい・交流の創出」、「まちの快適性の確保」も基本方針として掲げている。これらの観点も踏まえて、将来像の再整理や整備目標の追加を検討。
	3	・自転車は自転車駐車場の問題だけでなく、自転車の通行空間など歩行者の安全を確保するといった対歩行者の観点も何か位置づけるべきではないか。	・自転車の通行空間にも配慮して整備目標を再整理する。また、通行空間の検討に際しては、自転車等駐車対策協議会における意見をもとにして整理を行う。
回遊性について	1	・回遊性を向上させるために東西で何をすべきか、自転車についてこれだけの線路を渡らせるのは物理的にも困難だが、工夫して考えて頂きたい。	・自転車駐車場利用者の実態を踏まえ、地下 JR 管理通路と東口地下自転車駐車場の連携等、東西の回遊性に配慮した駅前広場、自転車駐車場の整備案を検討。
	2	・東口駅前地下に自転車駐車場を作るのであれば、東西両方で使えることが必要ではないか。自転車、ロータリーの改善策についてもそのような観点を踏まえて検討してほしい。	
自転車駐車場の検討に係わる事項	1	・鉄道利用のみではなく、店舗、オフィスでの利用などがあり、それぞれが一定程度の利用に応じた整備負担をしていくべきではないか。違法駐輪が多いから自転車駐輪場を作っていくというやり方では合致しない。	・東口については、早期の振替が必要な暫定利用の自転車駐車場が多数存在するが、新規の設置場所を見つけるのが困難な状況である。そのような中、駅前広場整備という契機を逃さずにその地下空間を活用した自転車駐車場の整備を図ることを検討。
全体に関わる事項	1	・初動期の話だけでなく、中長期的な話を視野に入れて初動期の5年間でどう位置付けられているのかももう少し議論すべき。	・初動期の整備パターン検討の中で、自由通路整備位置との連携等中長期への配慮事項を示すとともに、初動期の整備パターン検討の結果得られた課題について、中長期での対応方針を検討。

「蒲田駅を中心とする地区整備」に関する考え方の再構築

平成22年度の「蒲田駅周辺整備計画策定調査研究会中間報告」及び23年度「蒲田駅周辺整備計画（たたき台）」を踏まえて、蒲田駅を中心とする地区整備の考え方を再構築し、まとめ方について整理する。

蒲田駅周辺整備計画

＜従来の考え方＞

①初動期での取り組み（概ね5年程度）

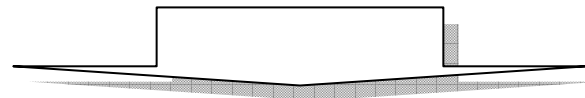
- ・東口駅前広場の拡張・再整備
- ・東口駅前地下自転車駐車場の整備
- ・西口駅前広場の再整備（広場のフラット化）

②中長期での取り組み（概ね5～20年程度）

- ・駅前広場の歩行者環境の向上
- ・新空港線「蒲蒲線」整備を契機とした駅前広場機能の拡充
- ・駅舎・駅ビルの機能更新等に合わせた自由通路の整備
- ・東口・西口の駅前広場の駅周辺街区の更新

＜問題点＞

「整備計画」は本来、具体的な対応計画であるため、初動期での取り組みには馴染むが、具体化がまだ先になる中長期の取り組みを初動期と同じ括りにしたままだと、両者の違いがわかりにくい。



蒲田駅周辺再編プロジェクト ～初動期整備計画、中長期整備指針～

＜再構築した考え方＞

①初動期整備計画（～5年程度）→**すぐに取り組む「整備計画」**

- ・東口駅前広場の拡張・再整備
- ・東口駅前地下自転車駐車場の整備
- ・西口駅前広場の再整備（広場のフラット化）

②中長期整備指針（～10年程度）→**将来整備を見据えた「指針」**

- ・周辺街区と連携した駅前広場の拡張
- ・新空港線「蒲蒲線」整備を契機とした駅前広場機能の拡充
- ・駅舎・駅ビルの機能更新等に合わせた自由通路の整備

＜効果＞

1. 蒲田駅を中心とする地区整備は、短期と中長期で構成される総合プロジェクトであることが明確な括りになる。
2. 「整備計画」は、初動期に取り組む実効性あるものに特化できる。
3. 中長期の検討を要するものは、整備計画と切り分け「指針」として整理できる。→将来整備を見据えた課題がより浮き彫りになる。

「蒲田駅周辺再編プロジェクト ～初動期整備計画、中長期整備指針～」の構成

●駅前空間範囲(対象区域)

駅を中心とした概ね半径200mのうち、駅舎・駅ビル、駅前広場、駅直近街区、主要道路及びその沿道街区

構成

1. 駅前空間の将来像

- ◆環境にやさしく、快適で更なる活力を生み出す都市再生により「人が集い・にぎわう、国際都市大田の交通結節拠点・蒲田」

2. 駅前空間再編方針

- ◆都市基盤：駅前広場、交通機能、自転車駐車場、回遊性・連絡性
- ◆都市環境：駅前空間、活気、潤い、環境負荷低減、自然エネルギー
- ◆都市防災：防災機能、建替え促進

3. 駅前空間形成の方向性

- ◆快適で安全な歩行者空間
- ◆駅東西が一体となった回遊性の高い空間
- ◆便利で快適な交通結節空間
- ◆快適な自転車利用空間
- ◆安心・安全な都市空間
- ◆環境にやさしい都市空間

4. 駅前空間整備の概要

- ◆東口：駅前広場、駅前広場周辺街区、東口周辺、駅ビル
- ◆西口：駅前広場、駅前広場周辺街区、東口周辺、駅ビル
- ◆JR駅コンコース：中央通路
- ◆南・北側の東西自由通路：南側地下通路、北側自転車通路
- ◆新空港線「蒲蒲線」：連絡通路・出入口の整備

5. 蒲田駅周辺再編プロジェクトの進め方

- ◆段階整備の考え方：初動期・中長期の位置づけ
- ◆区民・事業者・行政の協働によるまちづくり

6. 初動期整備計画

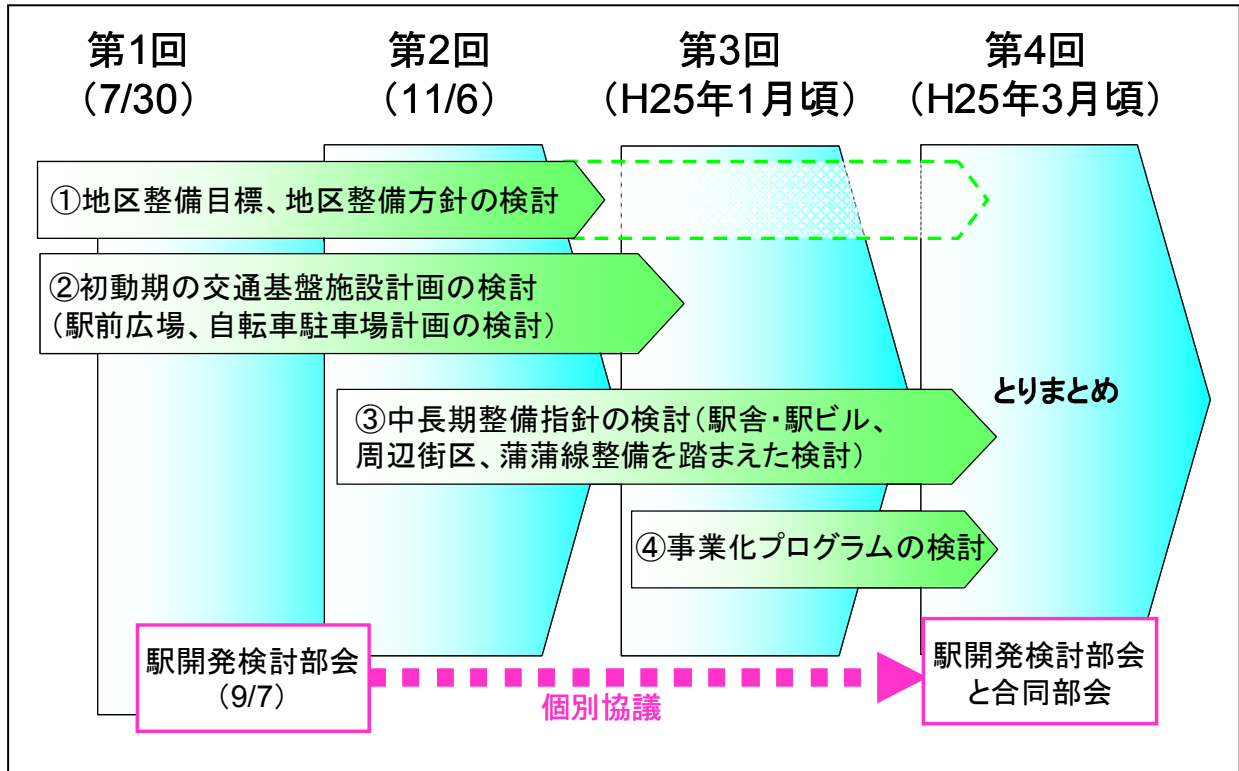
- ◆東口駅前広場
- ◆西口駅前広場

7. 中長期整備指針

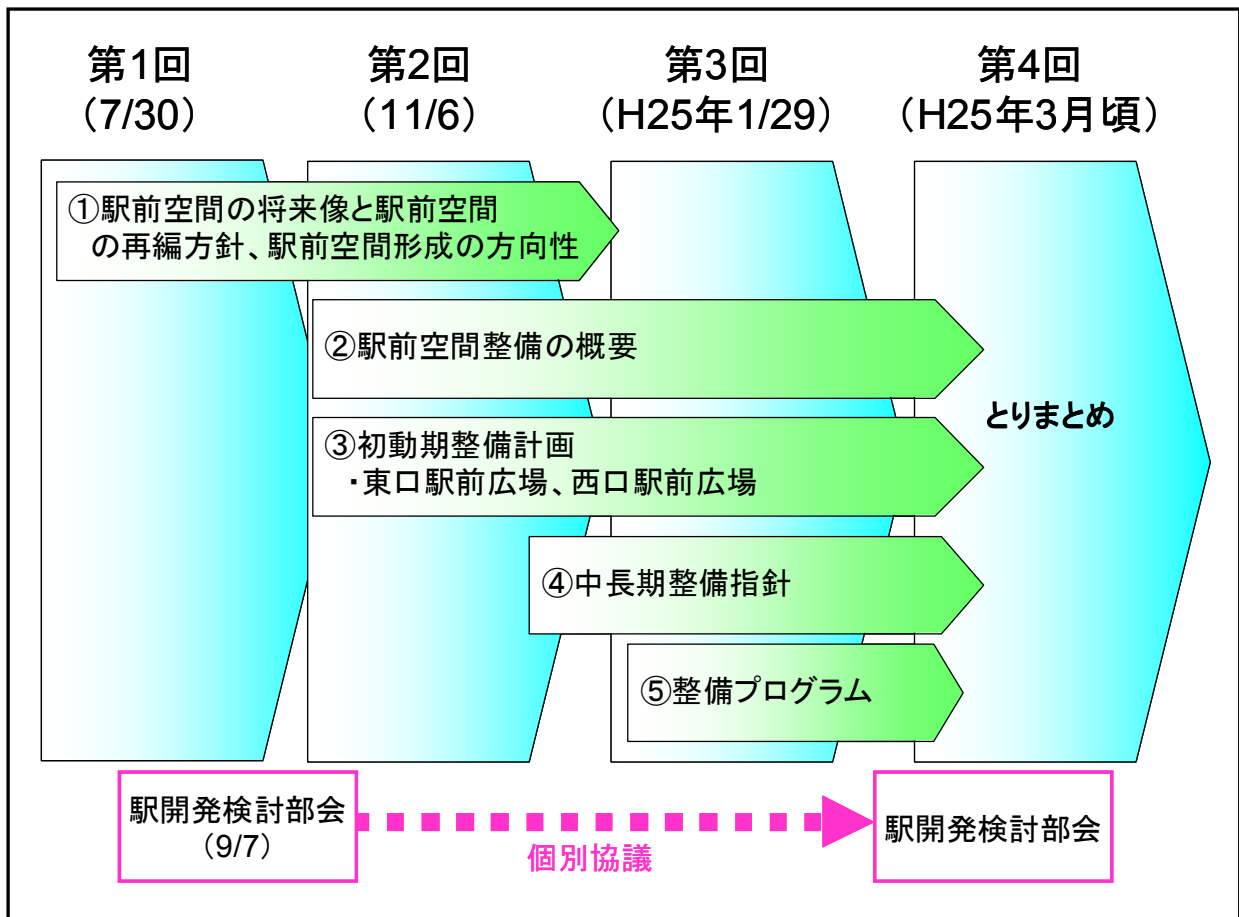
8. 整備プログラム

蒲田都市づくり推進会議の検討スケジュールの変更

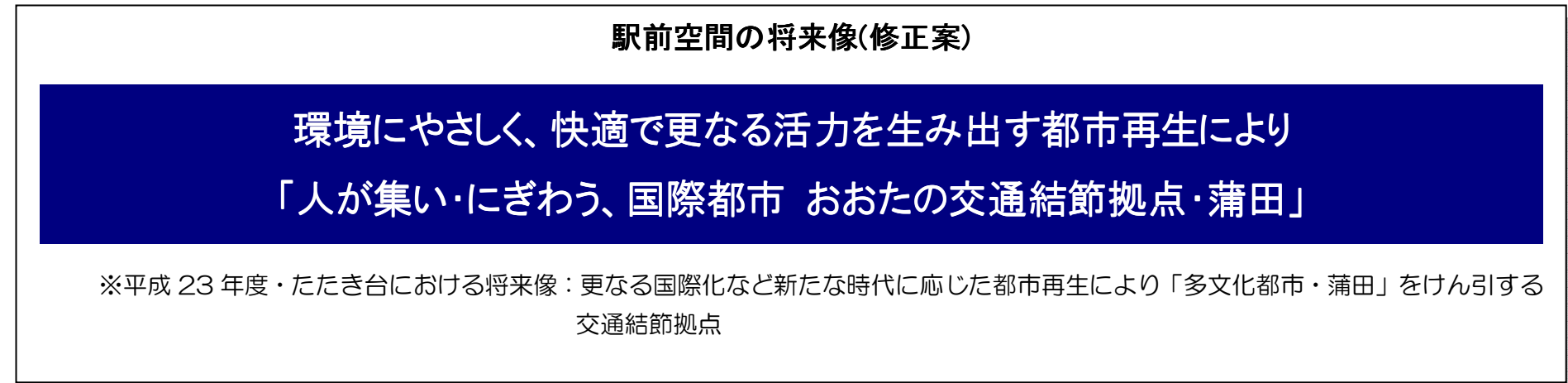
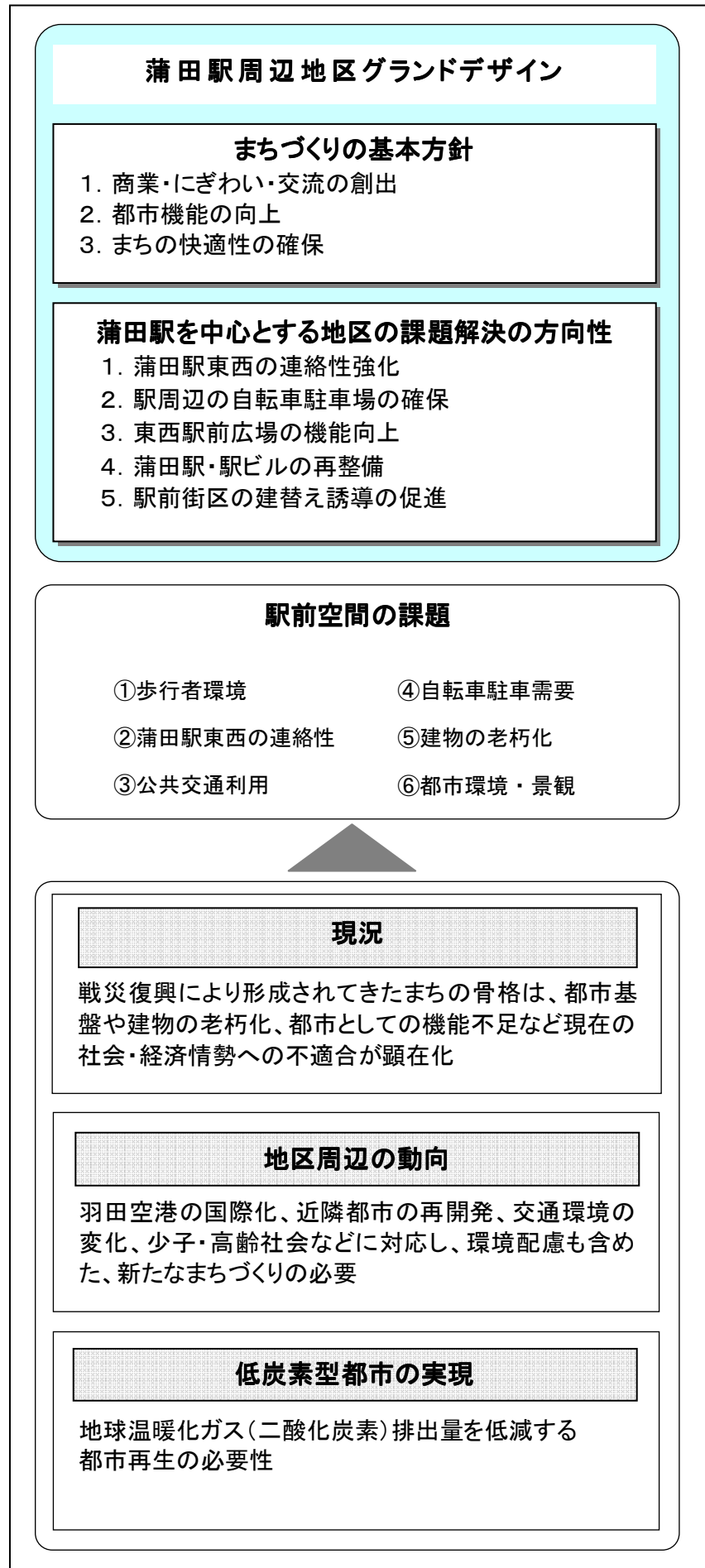
第1回推進会議で提示した検討スケジュール



変更案



駅前空間の将来像と駅前空間再編方針



駅前空間形成の方向性

駅前空間の課題

- ①歩行者環境
- ②蒲田駅東西の連絡性
- ③公共交通利用
- ④自転車駐車需要
- ⑤建物の老朽化
- ⑥都市環境・景観

駅前空間形成の方向性

駅前広場、駅舎・駅ビル、周辺街区が一体となった  
機能性・利便性・快適性の高い駅前空間の形成

1. 快適で安全な歩行者空間

- 十分な歩道幅員などゆとりある歩行者空間
- 快適・安全で誰もが円滑に移動できる歩行者動線

2. 駅東西が一体となった回遊性の高い空間

- 人が行き交う駅東西連絡
- 快適で魅力ある回遊路

3. 便利で快適な交通結節空間

- 利用しやすい公共交通
- 快適で機能性の高い駅前広場

4. 快適な自転車利用空間

- 利用しやすい自転車駐車場
- 安全な自転車通行環境

5. 安全・安心な都市空間

- 地震に強い建物
- 防災機能を持つ駅前広場

6. 環境にやさしい都市空間

- 景観の美しいまちなみ
- 環境にやさしい施設(低炭素型都市)

考えられる整備内容

(1) 東口

- ① 駅前広場
  - ・面積拡張による歩道拡幅や、公共交通施設の再配置などの整備
  - ・駅前広場の立体利用(ペDESTリアンデッキの設置など)
  - ・地下自転車駐車場の整備
- ② 駅前広場周辺街区
  - ・共同化等の建替え、附置義務自転車駐車場の確保
  - ・駅前広場の立体利用と合わせた建物との接続
- ③ 東口周辺
  - ・歩行者・自転車の通行環境の改善
- ④ 東口駅ビル
  - ・駅舎と駅前広場をつなぐ歩行者スペースの確保、自由通路の接続
  - ・附置義務自動車・自転車駐車場、荷捌きスペースの確保

(2) 西口

- ① 駅前広場
  - ・段差解消による歩行者動線、イベントスペースの確保
  - ・公共交通施設の再配置、歩道空間の一部拡幅
- ② 駅前広場周辺街区
  - ・共同化等の建替え、附置義務自転車駐車場の確保
- ③ 西口周辺
  - ・歩道拡幅等による歩行者・自転車の通行環境改善
- ④ 西口駅ビル
  - ・鉄道施設相互を結ぶ歩行者連絡通路の整備
  - ・附置義務自動車・自転車駐車場、荷捌きスペースの確保

(3) JR 駅コンコース

- ・中央自由通路(コンコース)の整備

(4) 南・北側の東西自由通路

- ・新空港線「蒲蒲線」整備と合わせた南側地下自由通路・出入口整備
- ・北側自転車地下連絡通路の整備

(5) 新空港線「蒲蒲線」

- ・地下駅の整備、地上とつながる連絡通路・出入口の整備